

日本藻類学会第 42 回大会 仙台 2018



学会会長 奥田 一雄
大会会長 吾妻 行雄

東北大学青葉山新キャンパス
(〒 980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉 468-1)
2018 年 3 月 23 日 (金) ~ 25 日 (日)

主催：日本藻類学会 共催：東北大学大学院農学研究科

1. 会場までの交通 (図 1)

- ・地下鉄仙台駅から地下鉄東西線「八木山動物公園行」に乗車し「青葉山駅」下車、南1出口より南へ進み、大通りに出たら右折し、徒歩6分。
- ・東北大学 HP のキャンパスマップ (<https://www.tohoku.ac.jp/map/ja/>) もご参照下さい。このサイトで「青葉山コモンズ」で検索して下さい。建物番号はJ41です。
- ・乗用車でのご来場はご遠慮下さい。

2. 会場 (図 1, 2)

大会：東北大学青葉山新キャンパス (仙台市青葉区荒巻字 青葉 468-1)

編集委員会・評議員会：青葉山コモンズ 2階第7 講義室

総会：青葉山コモンズ 2階大講義室 (A 会場)

懇親会：ホテルメトロポリタン仙台 3F「曙」(仙台市青葉区中央1丁目1-1)

公開シンポジウム：青葉山コモンズ 2階大講義室 (A 会場)

ミニシンポジウム：青葉山コモンズ 2階第3 講義室

その他の会場

ワークショップ I：牡鹿半島西岸・東北大学大学院農学研究科附属女川フィールドセンターほか

ワークショップ II：東松島市ほか

※大会期間中 24 日と 25 日は、東北大学青葉山新キャンパス生協食堂(みどり食堂)が休業予定です。青葉山新キャンパス周辺には他に食堂がありません。地下鉄青葉山駅近くの理学研究科棟にセブンイレブンが1店舗あるのみです(通常営業時間 8:00-22:00)。このため、大会事務局に事前にお弁当をご予約頂くか、昼食をご持参ください。会場の休憩室 1・2 (第 5・6 講義室) および 1 階エントランスホールでは飲食が可能です。

3. 宿泊

会場の青葉山新キャンパス周辺には宿泊施設はありません。しかし、仙台駅周辺には多くの宿泊施設があります。大会実行委員会よりホテル等の斡旋は行いませんので、各自でお調べ頂き手配をお願いいたします。仙台市内ホテルの客室稼働率は高い傾向にあり、大会直前に予約すると宿を確保できないことも予想されます。できるだけ早めに予約されることをお勧めします。

4. 日程

2018 年 3 月 23 日 (金)

15:00 ~ 16:30 編集委員会【青葉山コモンズ 2階第7 講義室】

※評議員控室【青葉山コモンズ 2階第3 講義室】

16:30 ~ 18:00 評議員会【青葉山コモンズ 2階第7 講義室】

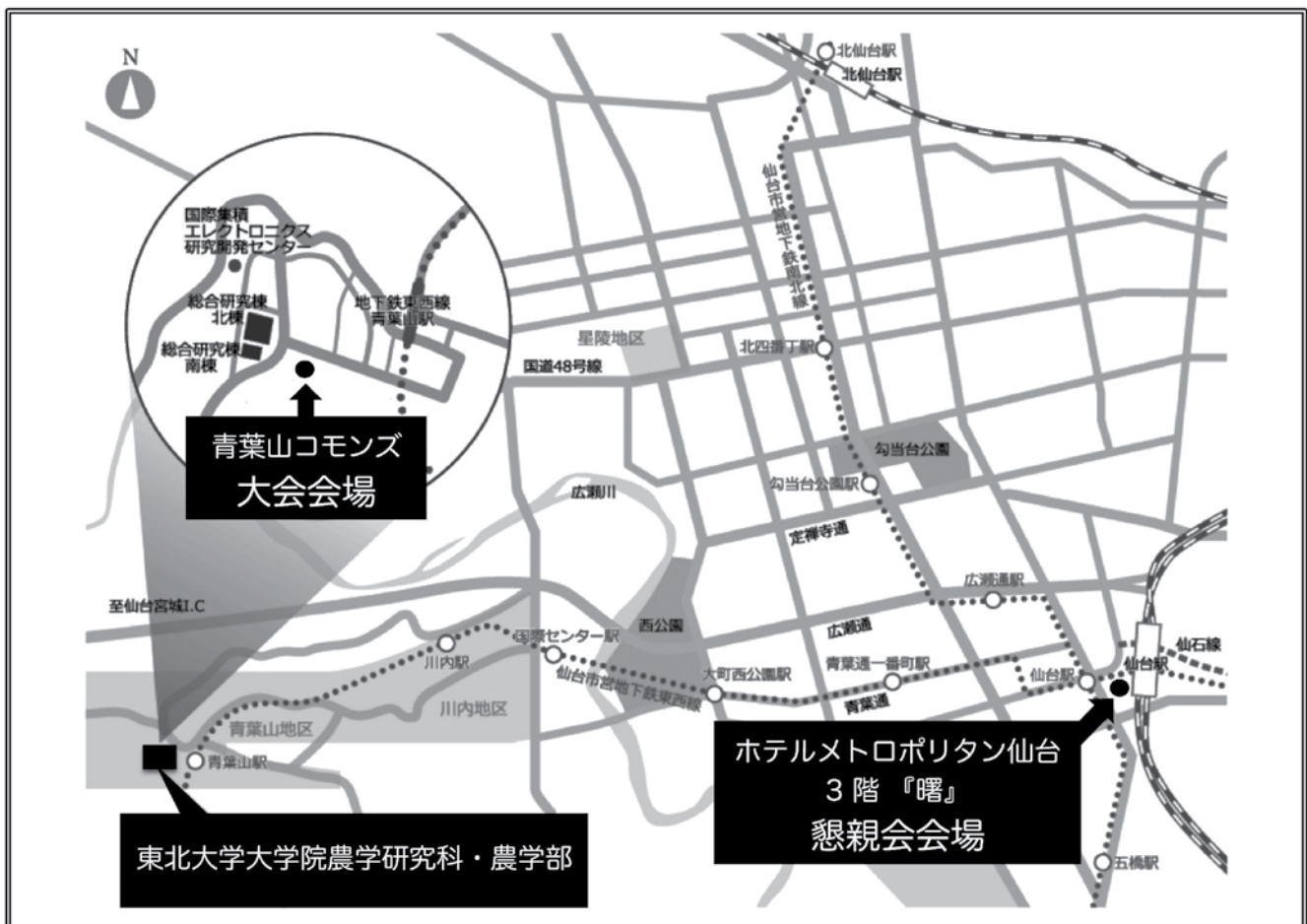
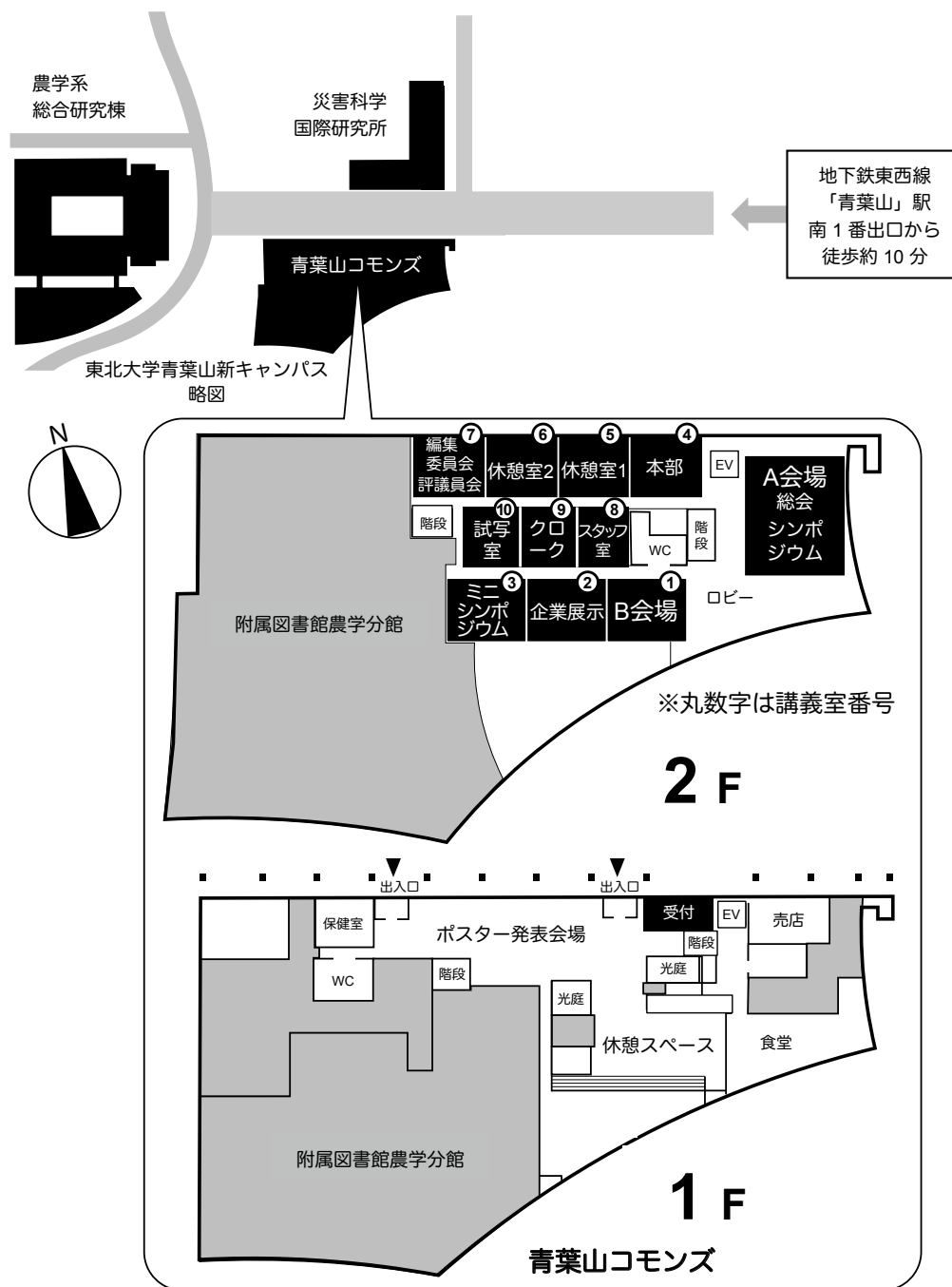


図 1 大会会場・懇親会会場へのアクセス



A会場・総会・公開シンポジウム：大講義室（翠生ホール）

B会場：第1講義室

企業展示：第2講義室

ミニシンポジウム：第3講義室

大会実行委員会本部：第4講義室

休憩室1：第5講義室

休憩室2：第6講義室

編集委員会・評議員会：第7講義室

スタッフ室：第8講義室

クロック：第9講義室

試写室：第10講義室

図2 大会会場（青葉山コモンズ）

2018年3月24日(土)

- 9:00～11:50 口頭発表【青葉山コモンズ2階(A・B会場)】
 13:00～14:00 ポスター発表(奇数番号)【青葉山コモンズ1階ホール】
 14:15～16:20 口頭発表【A・B会場】
 16:30～17:30 総会【A会場】
 18:30～20:30 懇親会【ホテルメトロポリタン仙台】

2018年3月25日(日)

- 8:50～12:00 公開シンポジウム【A会場】
 9:00～11:50 口頭発表【B会場】
 13:00～14:00 ポスター発表(偶数番号)【青葉山コモンズ1階ホール】
 14:15～15:30 口頭発表【A会場】
 14:15～16:20 口頭発表【B会場】
 16:00～18:10 ミニシンポジウム【青葉山コモンズ2階第3講義室】

2018年3月26日(月)

- 7:00頃～18:00頃 ワークショップI
 8:00頃～18:00頃 ワークショップII

5. 参加受付(青葉山コモンズ1階;図2)

受付時間:3月24日(土)8:00～17:00
 3月25日(日)8:00～15:00
 当日参加申込みを受け付けます。
 大会参加費:6,000円(学生4,000円)
 懇親会費:8,000円(学生6,000円)。

6. クローク(青葉山コモンズ2階第9講義室;図2)

以下の時間、お荷物(ただし、貴重品は除く)をお預かりします。
 3月24日(土)8:00～17:00
 3月25日(日)8:00～17:00

7. 編集委員会・評議員会

編集委員会:3月23日(金) 15:00～16:30
 評議員会: 同 16:30～18:00
 会場:東北大学青葉山新キャンパス青葉山コモンズ2階第7講義室(図2)
 ※評議員控室:青葉山コモンズ2階第3講義室(図2)

8. 発表形式**(1) 口頭発表**

時間:発表12分,質疑応答3分です(1鈴10分,2鈴12分,3鈴15分)。

機器:

- 発表者のパソコンにつないだ液晶プロジェクター(スクリーン1枚)で発表していただきます。各自でパソコンをご用意下さい。
- ご自身のパソコンを用意できない方は、あらかじめ準備委員会にご相談ください。
- 使用する液晶プロジェクターは切替器のミニDsub15ピン外部出力コネクタを介してパソコンに接続されます。多くのパソコンはこのコネクタで接続できますが、アップル社製パソコン、あるいはDVIやHDMI接続端子しか持たないパソコンを使用する場合は各自で接続アダプター、変換アダプター等をご用意下さい。

- パソコンのバッテリーだけでは液晶プロジェクターに出力できない場合がありますので、パソコンに電源がとれるよう、電源ケーブルをご用意ください。
- 万が一に備え、発表用ファイルをコピーしたUSBメモリをお持ち下さい。発表用ファイルに静止画、動画、グラフ等のデータをリンクさせている場合は、それらのデータもUSBメモリに保存して下さい。

次演者の待機:次演者は次演者席でパソコンに電源をとり、OSを立ち上げてください。切替器の空いているラインにパソコンを接続して待機して下さい。前演者の講演が終わり次第、次演者はご自身で切替器のスイッチを切り替えます。パソコンのミラーリングの操作はスイッチの切替後に行ってください。

事前の動作確認:事前の動作確認:会場内に試写室を設けますので、事前の動作確認にご利用ください(試写室:青葉山コモンズ2階第10講義室;図2)。
 ※口頭発表の講演要旨はp.62-77をご覧ください。

(2) ポスター発表

サイズ:ポスター用のパネルの大きさは、縦180cm,横90cmです。

貼付用具:ピンを大会準備委員会で準備します。

必要記載事項:ポスターの左上部に発表番号、上部に表題と氏名(所属)を記入して下さい。

構成:目的,実験(観察)方法,結果,考察,結論について、それぞれ簡潔にまとめた文章をつけて下さい。

写真・図表:それぞれに簡単な説明文を添付して下さい。

フォント・図表サイズ:少し離れた場所からでも判読できるようにご配慮ください。

掲示時間:3月24日(土)8:30から掲示できます。12時頃までに所定の場所に掲示し、25日(日)15時頃までに撤収して下さい。

※ポスター発表の講演要旨はp.77-97をご覧ください。

9. 公開シンポジウム**「沿岸域のモニタリング — 藻場の過去・現在・未来」**

内容:全国で行われてきた藻場のモニタリングから分かってきたこと,将来につなぐべきことについてお話しします。

日時:2018年3月25日(日)8:50～12:00

会場:青葉山コモンズ2階大講義室(翠生ホール:A会場)
 講演者と演題:

8:50～9:00 開会コメント(田中次郎)

パート1:環境省モニタリングサイト1000の調査から(座長:田中次郎)

9:00～9:20 モニタリングサイト1000藻場「淡路由良,竹野」
 川井浩史(神戸大)・阿部真比古(水産大学校)・神谷充伸(福井県立大)・倉島彰(三重大)・島袋寛盛(瀬戸内海区水研)・村瀬昇(水産大学校)・吉田吾郎(瀬戸内海区水研)・寺田竜太(鹿児島大)

9:20～9:40 モニタリングサイト1000藻場「室蘭,薩摩長島」
 寺田竜太(鹿児島大)・本村泰三(北大)・島袋寛盛(瀬戸内海区水研)・倉島彰(三重大)・吉田吾郎(瀬戸内海区水研)・川井浩史(神戸大)

9:40～10:00 モニタリングサイト1000藻場「志津川,伊豆下田」
 倉島彰(三重大)・坂西芳彦(日本海区水研)・太斎彰浩・阿部拓三(南三陸町)・青木優和(東北大)・田中次郎(東京海洋大)

10:00 ~ 10:10 休憩

パート2: 東北沿岸での震災後調査から (座長: 青木 優和)

10:10 ~ 10:30 岩礁藻場の東日本大震災に伴う変化: 南三陸アラメ群落の事例

村岡 大祐 (東北水研)・玉置 仁 (石巻専修大)

10:30 ~ 10:50 宮城県牡鹿半島孤崎浜沿岸において地盤沈下とその後の護岸工事がアラメ個体群に与えた影響

鈴木 はるか (東北大)・青木 智也 ((株)シャトー)・猪股 英里・吾妻 行雄・青木 優和 (東北大)

10:50 ~ 11:10 宮城県志津川湾の褐藻アラメ群落に対する津波の影響とその後の回復過程

遠藤 光 (鹿児島大)・青木優和 (東北大)・堀越彩香 (北里大)・吾妻行雄 (東北大)

11:10 ~ 11:30 宮城県志津川湾における褐藻アラメ群落のキタムラサキウニ大量加入による崩壊とウニ除去による再生

吾妻 行雄 (東北大)・阿部 拓三 (南三陸町)・廣常 真人・田中 一幸・猪股 英里・高木 聖実・青木 優和 (東北大)

11:30 ~ 11:50 総合討論

11:50 ~ 12:00 閉会コメント (青木 優和)

※公開シンポジウムの講演要旨は p. 98-102 をご覧ください。

10. ミニシンポジウム

「海藻と動物～忘れちゃいけないその関係～」

内容: 若手研究者が「海藻と動物との関係」についてさまざまな観点からご紹介します。

日時: 2018年3月25日(日) 16:00 ~ 18:10

会場: 青葉山コモンズ 2階第3講義室

講演者と演題:

16:00 ~ 16:10 開会コメント (大澤 祐美子)

[前半] (座長: 大澤 祐美子)

16:10 ~ 16:30 三重県南部の磯焼け海域におけるガンガゼと海藻の関係 (石川 達也)

16:30 ~ 16:50 磯焼け域のウニを高級食材へ～海藻による高品質化～ (高木 聖実)

16:50 ~ 17:10 借りぐらしのエビファウナ～アカモク葉上動物の群集形成～ (伊藤 浩吉)

17:10 ~ 17:20 休憩

[後半] (座長: 伊藤 浩吉)

17:20 ~ 17:40 アラメに登るか役に立つ? ~ 植食性巻貝コシダカガンガラと褐藻アラメの関係を野外実験で探る～ (鈴木 はるか)

17:40 ~ 18:00 **Algae as epibionts: possible effects of *Pseudocladophora* on host *Lunella*** (大澤 祐美子)

18:00 ~ 18:10 閉会コメント (青木 優和)

※ミニシンポジウムの講演要旨は p. 103-104 をご覧ください。

11. 藻類学ワークショップ (参加受付終了)

以下の2つのワークショップを実施します。

ワークショップI 「藻類採集会」

内容: 女川フィールドセンターをベースにして、牡鹿半島西海岸で藻類の採集と観察を行う。

日時: 2018年3月26日(月) 仙台発着 早朝出発で18時までには戻る。

場所: 東北大学大学院農学研究科附属女川フィールドセンター

主な採集場所: 牡鹿半島西海岸 (宮城県石巻市)

ワークショップII 「乾しノリ生産加工施設の見学会と女川視察」

内容: 東松島市にある震災後に建設された乾しノリ生産加工施設 (皇室献上ノリ) の見学および女川町の復興状況の視察を行う。

日時: 2018年3月26日(月) 仙台発着 早朝出発で18時までには戻る。

場所: 女川町, 東松島市

問合せ・連絡先: 東北大学大学院農学研究科 青木 優和 (m-aoki@m.tohoku.ac.jp)

12. レクリエーション

藻類学会会員の親睦を深めるため、テニス大会を以下のように開催します。参加希望者はご連絡下さい。

日時: 2018年3月23日(金) 10:00 ~ 15:00

場所: 宮城野原公園総合運動場テニスコート (仙台市宮城野区宮城野 2-11-6)

連絡先: 国立環境研究所 山口 晴代 (yamaguchi.haruyo@nies.go.jp)

13. 喫煙について

東北大学はキャンパス内全面禁煙です。会場付近に喫煙可能な場所はありませぬのでよろしくご願ひ致します。

14. 会場内でのWi-Fiの利用

大会期間中、会場にて大学の無線LAN (Wi-Fi) を利用できます。接続に必要な情報は会場にて参加者にお伝えします。また、eduroamのアカウントをお持ちの方はこちらも利用できます。

15. お問い合わせ先

〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 468-1

東北大学大学院農学研究科 水圏植物生態学分野

日本藻類学会第42回仙台大会実行委員会・青木 優和

電話: 022-757-4152, FAX: 022-757-4155

電子メール: jsp2018.sendai@gmail.com

お問い合わせはできるだけ電子メールで願ひ致します。

日本藻類学会第 42 回大会講演プログラム

3月24日(土) 午前の部

9:00 – 11:50 口頭発表

A 会場 (青葉山コモンズ 2 階 大講義室)		B 会場 (青葉山コモンズ 2 階 第 1 講義室)	
9:00	A01 多様な環境に適応放散した紅藻アマノリ類の生体分子解析 ○瀬戸 彩映里 ¹ ・横山 雄彦 ² ・小林 哲幸 ¹ ・南 誓子 ³ ・菊池 則雄 ⁴ ・寫田 智 ¹ (1 お茶の水女子大学大学院, ² 北里大学海洋生命科学部, ³ 株式会社白子, ⁴ 千葉県立中央博物館分館海の博物館)	B01 海産微小珪藻 <i>Chaetoceros tenuissimus</i> の休眠からの復活プロセス ○角田 成美 ¹ ・山口 晴生 ² ・足立 真佐雄 ² ・外丸 裕司 ³ (1 高知大・院, ² 高知大, ³ 水産機構・瀬水研)	
9:15	A02 カイガラアマノリ糸状体の球形細胞形成に及ぼす培地の影響 ○阿部 真比古 ¹ ・中川 昌大 ¹ ・村瀬 昇 ¹ ・鹿野 陽介 ² (1 水産機構水大校, ² 山口水研セ)	B02 <i>Epithemia</i> 属 2 分類群の生存戦略の比較 ○鎌倉 史帆・阿知波 里歩・杉本 亮・近藤 竜二・佐藤 晋也 (福井県大・藻類)	
9:30	A03 カイガラアマノリ葉状体のNおよびP含量に及ぼす培地の影響 ○中川 昌大 ¹ ・阿部 真比古 ¹ ・村瀬 昇 ¹ ・鹿野 陽介 ² (1 水産機構水大校, ² 山口水研セ)	B03 南西諸島産海産付着藍藻 <i>Scytonema seagrifianum</i> Welsh の形態と生態 ○福岡 将之・鈴木 秀和・田中 次郎 (海洋大・院・藻類)	
9:45	A04 遺伝子多様度解析を用いたアントクメ個体群の消長予測 ○秋田 晋吾 ^{1,2} ・小祝 敬一郎 ³ ・近藤 秀裕 ³ ・廣野 育生 ³ ・坂本 崇 ⁴ ・藤田 大介 ¹ (1 海洋大・院・応用藻類, ² JSPS DC1, ³ 海洋大・院・ゲノム科学, ⁴ 海洋大・院・水族養殖)	B04 ピレノイドを有するナマズコナミドリ属 (<i>Gloeomonas</i> ; 緑藻綱, オオヒゲマワリ目) の未記載種 ○仲田 崇志・冨田 勝 (慶大・先端生命研, 慶大・政策メディア・先端生命)	
10:00	A05 環境サンプル由来 DNA からのコンブ類配偶体の判別と遊走子の定量 ○長里 千香子 ¹ ・川本 広基 ² ・富岡 輝男 ¹ ・小杉 知佳 ³ ・加藤 敏朗 ³ ・本村 泰三 ¹ (1 北大・北方セ, ² 北大・院・環境科学, ³ 新日鐵住金 (株))	B05 過酷な生育環境から単離した微細藻類の系統・分類学的研究 ○吉田 梨沙子・豊島 拓樹・宮田 彩実・川崎 信治 (東農大・院・バイオ)	
10:15	A06 Genome sequencing and population genomic analyses of <i>Undaria pinnatifida</i> : adaptations to new environments ○Louis Graf・Youn Hee Shin・Hwan Su Yoon (Sungkyunkwan Univ.)	B06 観光洞の照明植生を形成するスミレモ類に関する新発見 ○半田 信司 ¹ ・溝瀧 綾 ¹ ・中原 - 坪田 美保 ² ・坪田 博美 ³ (1 広島県環境保健協会, ² 千葉中央博・共同研究員, ³ 広島大・院・理)	
10:30–10:35	休憩		
10:35	A07 徳島県産ワカメ 3 種苗の高水温下における生長特性 ○村瀬 昇 ¹ ・棚田 教生 ² ・戸越 飛鳥 ¹ ・多田 篤司 ² ・野田 幹雄 ¹ ・阿部 真比古 ¹ ・吉田 吾郎 ³ (1 水産機構水大校, ² 徳島農水総技セ, ³ 水産機構瀬水研)	B07 分枝糸状緑藻 3 新規系統群の系統的的位置と形態 ○南波 紀昭 ¹ ・中山 剛 ² (1 筑波大・院・生命環境, ² 筑波大・生命環境系)	
10:50	A08 ワカメ配偶体および孢子体の生長最適条件の検討と種苗生産技術への活用 ○佐藤 陽一 ¹ ・及川 浩生 ² ・最上谷 美穂 ¹ ・兼松 宏一 ³ ・中 裕之 ³ ・柏谷 伸一 ² ・遠藤 光 ⁴ ・河野 重行 ⁵ (1 理研食品, ² パナソニック, ³ SiM24, ⁴ 鹿大・水, ⁵ 東京大 FC)	B08 ペリディニンタイプ葉緑体をもつ渦鞭毛藻カレニア科未記載種の微細構造 ○高橋 和也 ¹ ・Garry Benico ² ・Wai Mun Lum ² ・岩滝 光儀 ¹ (1 東京大・アジアセンター, ² 東京大・農学生命科学)	
11:10	A09 青色 LED 光がワカメの成長と色彩に与える影響 ○鈴木 貴史 ¹ ・青木 優和 ¹ ・遠藤 光 ² ・吾妻 行雄 ¹ (1 東北大・院・農, ² 鹿児島大・水産)	B09 Morphology and phylogeny of <i>Asterodinium gracile</i> collected from Nagasaki coastal water ○Garry Benico ¹ ・Kazuya Takahashi ² ・Wai Mun Lum ¹ ・Mitsunori Iwataki ² (1 Graduate School of Agricultural and Life Sciences, Univ. Tokyo, ² Asian Natural Environmental Science Center, Univ. Tokyo)	

- 11:20 **A10** 近年初めて検出された海藻類の成長と化学成分に対する水温と栄養塩濃度の交互作用
○遠藤 光¹・高 旭² (¹鹿大・水, ²韓国圓光大・環境研)
- 11:35 **A11** アオサ 2 種における NO₃ および NH₄ の吸収特性
○中村 方哉^{1,2}・矢部 徹²・玉置 雅紀²・有田 康一²・石井 裕一³ (¹筑波大・院・生命環境, ²国立環境研究所, ³都環研)
- B10** モズク科モズク *Nemacystys decipiens* のゲノム解析 - 形態制御因子の特定にむけて -
○西辻 光希¹・比嘉 義規²・有本 飛鳥¹・佐藤 矩行¹・將口 栄一¹ (¹沖縄科学技術大学院大学マリンゲノミクスユニット, ²沖縄県恩納村漁協)
- B11** 緑色海藻クビレズタ *Caulerpa lentillifera* の部位特異的遺伝子発現の解析
○有本 飛鳥・西辻 光希・將口 栄一・佐藤 矩行 (沖縄科学技術大学院大学マリンゲノミクスユニット)

11:50 - 13:00 昼休み

3月24日(土) 午後の部

13:00 - 14:00 ポスター発表 (奇数番号)

ポスター会場 (青葉山 commons 1 階ホール)

- P01** 日本産褐藻フトモズク属 (ナガマツモ科) の分子系統学的解析と分類の再検討
○竹内 和沙¹・羽生田 岳昭²・孫 忠民³・川井 浩史² (¹神戸大・院・生物, ²神戸大・内海域セ, ³Institute of Oceanology, Chinese Academy of Sciences, China)
- P03** 新潟県沿岸におけるアカモク集団の遺伝的分化の解析
○本間 由莉¹・奥田 修二郎²・笠原 賢洋³・高橋 文雄³・吉川 伸哉⁴・上井 進也⁵ (¹新潟大院・自然研, ²新潟大・医歯, ³立命館大・生命科学, ⁴福井県立大・海洋, ⁵新潟大・理)
- P05** 東北地方太平洋沿岸産黄緑藻綱フシナシミドロ属藻類についての続報
○菊地 則雄¹・平野 弥生^{1,2}・大越 健嗣² (¹千葉海の博物館, ²東邦大)
- P07** A new species of the brown algal genus *Colpomenia* (Scytosiphonaceae)
○Michael Jacob C. Dy¹・Masakazu Hoshino¹・Tsuyoshi Abe²・Norishige Yotsukura³・Nina Klochkova⁴・Kyung Min Lee⁵・Sung Min Boo⁶・Kazuhiro Kogame⁷ (¹Dept. Nat. Hist. Sci. Grad. Sch. Sci., Hokkaido Univ., ²Univ. Museum, Hokkaido Univ., ³Field Sci. Center, Hokkaido Univ., ⁴Kamchatka State Tech. Univ., ⁵Univ. Oulu, ⁶Chungnam National Univ., ⁷Fac. Sci., Hokkaido Univ.)
- P09** 広島県東部の海藻相と約 10 年間の変化傾向
○山岸 幸正・田中 美希・ト部 公伸・向井 寛治・三輪 泰彦 (福山大・生命工)
- P11** 日本周辺に分布する褐藻ツルモ属の系統地理学的解析
○鈴木 雅大・羽生田 岳昭・川井 浩史 (神戸大・内海域セ)
- P13** シャジクモ藻類シャジクモにおける LEAFY 遺伝子ホモログの発現・機能解析
渡邊 みゆき¹・山田 敏弘²・西山 智明³・川井 浩史⁴・伊藤 元己⁵・坂山 英俊¹ (¹神戸大・院・理, ²金沢大・理工, ³金沢大・学際セ, ⁴神戸大・内海域セ, ⁵東大・院・総合文化)
- P15** 千葉県館山市坂田地先におけるナガミルの季節的消長と室内培養
○宮代 穂・秋田 晋吾・長尾 優作・陳 柏原・藤田 大介 (東京海洋大・応用藻類)
- P17** 褐藻タマハハキモクのマイクロサテライトマーカーの開発
○羽生田 岳昭・寺内 真・川井 浩史 (神戸大・内海域セ)
- P19** 栃木県で見つかった日本新産レマネア属 (カワモズク目レマネア科) の分布と生態
富永 孝昭 (栃木県立小山城南高等学校)
- P21** ヒライボの発芽体の生長に及ぼす温度と光量の影響
○吉岡 佐希恵¹・加藤 亜記¹・村瀬 昇²・阿部 真比古²・小池 一彦¹・馬場 将輔³ (¹広島大学, ²水産機構水大校, ³海洋生物環境研究所)
- P23** 島根県隠岐西ノ島別府湾沿岸における褐藻ツルアラメ群落の季節変化
木下 陽一¹・山谷 裕昭²・中西 正美³・平田 文久³・林 裕一⁴・杉浦 義正⁵・村瀬 昇⁵ (¹西ノ島町, ²ノア隠岐, ³JFしまね, ⁴岡部(株)応用藻類学研究所, ⁵水産機構水大校)
- P25** 神奈川県三浦市城ヶ島地先におけるアカモクの成長と再生
○名越 日佳理¹・長尾 優作¹・岡部 久²・藤田 大介¹ (¹東京海洋大・応用藻類, ²神奈川県水技セ)
- P27** 三陸産ワカメ優良系統開発と実用化に向けた取り組み
○佐藤 陽一¹・萩原 亮¹・斎藤 大輔¹・中 裕之^{2,3}・柏谷 伸一²・平野 智也⁴・市田 裕之⁵・福西 暢尚⁵・阿部 知子⁵・河野 重行⁶・小野 克徳¹ (¹理研食品, ²パナソニック, ³SiM24, ⁴宮崎大農, ⁵理研仁科, ⁶東京大 FC)
- P29** 牡鹿半島孤崎浜沿岸におけるアラメ個体群間の遺伝子交流と遊走子の分散距離
○鈴木 はるか¹・青木 智也²・満行 知花³・綱本 良啓¹・陶山 佳久¹・吾妻 行雄¹・青木 優和¹ (¹東北大・院・農, ²(株)シャトー海洋調査, ³九大・理)
- P31** 青森県日本海沿岸のウニ類, 古腹足類の出現と生育海藻との関係について
○桐原 慎二¹・藤川 義一² (¹弘前大学新エネ研, ²青森県漁港漁場整備課)
- P33** 2000 年, 2017 年の青森県日本海沿岸における多年生ホンダワラ類の生育比較
○藤川 義一¹・桐原 慎二² (¹青森県漁港漁場整備課, ²弘前大学新エネ研)

- P35** フクロフノリのタンク生産に向けた種苗生産技術の開発
○岩田 優生¹・平岡 雅規² (¹高知大・院・理, ²高知大・総研セ)
- P37** 静岡県下田市白浜地先における雑海藻除去後のテングサ群落の回復
○山崎 達也¹・藤田 大介¹・長谷川 雅俊²・高木 康次² (¹海洋大・院・応用藻類, ²静岡県水産技術研究所・伊豆分場)
- P39** 紅藻オゴノリの光合成に対する光と温度の影響
○亀山 諒¹・Gregory N. Nishihara²・遠藤 光¹・寺田 竜太³ (¹鹿大・水, ²長大・院・水環・環東シナ海セ, ³鹿大・院・連農)
- P41** Comparison of northern Japan seaweed metabolites
○Shahlizah Binti Sahul Hamid^{1,2}・Masataka Wakayama^{1,2}・Yujin Ashino¹・Rie Kadowaki¹・Tomoyoshi Soga^{1,2}・Masaru Tomita^{1,2} (¹Institute for Advanced Biosciences, Keio University, ²Systems Biology Program, Graduate School of Media and Governance, Keio University)
- P43** かつて日本一の生産地だった大森の海苔養殖風景復活に向けて
○滝本 彩佳¹・小山 文大¹・藤塚 悦司²・鈴木 秀和³ (¹認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会, ²大田区立郷土博物館, ³海洋大・院・藻類)
- P45** NBRP 藻類 第4期の活動紹介
○山口 晴代¹・鈴木 重勝¹・川井 浩史²・羽生田 岳昭²・山口 愛果²・寺内 真²・渡邊 裕基²・小亀 一弘³・河地 正伸¹ (¹国立環境研究所, ²神戸大学内海域セ, ³北海道大学理学研究院)
- P47** 厚岸産寄生性渦鞭毛藻 *Haplozoon* の一種の分類学的研究
○山本 茉奈¹・Kevin Wakeman²・富岡 森理³・堀口 健雄³ (¹北大・理・生物, ²北大・国際連携機構, ³北大・院理・生物)
- P49** 鹿児島県馬毛島沖海底から採集した底生性渦鞭毛藻 *Madanidinium* 属の2新種について
○土田 裕之¹・寺田 竜太²・堀口 健雄³ (¹北大・理・生物, ²鹿児島大・農, ³北大・院理・生物)
- P51** 生葉上 *Cephaleuros* (スミレモ科, アオサ藻綱) の系統と地理的分布
○中原-坪田 美保¹・半田 信司²・溝淵 綾²・井上 侑哉³・原田 浩⁴・坪田 博美⁵ (¹千葉中央博・共同研究員, ²広島県環境保健協会, ³服部研, ⁴千葉中央博, ⁵広島大・院・理)
- P53** Polyphasic study of macroscopic colony-forming cyanobacteria that are related to produce bioactive secondary metabolites from Okinawan coasts
○Handung Nuriyadi¹・Philipus Uli Basa Hutabarat¹・Nguyen Xuan Hoa¹・Toshiaki Teruya²・Shoichiro Suda³ (¹Grad. Sch. Eng. Sci., U. of Ryukyus, ²Fac. Edu. U. of Ryukyus, ³Fac. Sci. U. of Ryukyus)
- P55** シラカバ属植物の樹皮上に生育する *Trentepohlia odorata* (スミレモ科, アオサ藻綱) の系統・分類学的研究
○溝淵 綾¹・半田 信司¹・中原-坪田 美保²・大村 嘉人³・久米 篤⁴・坪田 博美⁵ (¹広島県環境保健協会, ²千葉中央博・共同研究員, ³科博・植物, ⁴九大・院・農, ⁵広島大・院・理)
- P57** *Parietichytrium* 属 (ラビリンチュラ類) の核相変化の解明に向けた検討
○佐藤 正和¹・石橋 真由¹・武田 鋼二郎^{2,3}・本多大輔^{2,3} (¹甲南大院 自然科学, ²甲南大 統合ニューロ研, ³甲南大 理工)
- P59** 渦鞭毛藻 *Kapelodinium* 属 1種に観察された葉緑体の微細構造と系統
○高橋 和也・岩滝 光儀 (東京大・アジアセンター)
- P61** 南極産黄緑藻 *Botrydiopsis callosa* Treknwalder の形態と生活環
○大谷 修司¹・林 昌平² (¹島根大・教育, ²島根大・生資)
- P63** 沖ノ鳥島の水柱に出現する褐虫藻の多様性
依藤 実樹子^{1,2}・山下 洋³・鈴木 豪³・川崎 貴之⁴・岡田 亘⁴・中村 良太²・不動 雅之⁵・波利井 佐紀¹ (¹琉球大学熱帯生物圏研究センター, ²水産土木建設技術センター, ³(国研)水産研究・教育機構西海区水産研究所, ⁴株式会社エコー, ⁵水産庁)
- P65** PI 染色法を利用した海産微細藻類に対する重金属影響評価
○大田 修平・淵田 茂司・山岸 隆博・山口 晴代・越川 海・山本 裕史・河地 正伸 (国立環境研究所)
- P67** 南極海インド洋セクター浮氷域の海水中の珪藻相～第3報～
○小林 凧子¹・鈴木 秀和¹・滝本 彩佳²・宮崎 奈穂³・茂木 正人⁴・南雲 保⁵・田中 次郎¹ (¹海洋大・藻類, ²大森海苔のふるさと館, ³海洋大・生物海洋, ⁴海洋大・海洋生物・極地研, ⁵日歯大・生物)
- P69** 盗葉緑体の一生: *Rapaza viridis* が示唆するオルガネラ獲得進化の側面
○丸山 萌¹・小林 滉宜²・粟井 光一郎²・谷藤 吾朗³・洲崎 敏伸⁴・柏山 祐一郎¹ (¹福井工大, ²静岡大, ³国立科学博物館, ⁴神戸大)
- P71** 単細胞性緑藻 *Chlamydomonas reinhardtii* のセプチン変異体の解析
○桐生 涼香¹・西井 一郎² (¹奈良女・人間文化, ²奈良女・理)
- P73** 渦鞭毛藻 *Nusuttodinium aeruginosum* の盗葉緑体現象における宿主と共生藻の発現遺伝子変動解析
○大沼 亮¹・廣岡 俊亮¹・兼崎 友²・吉川 博文³・宮城 進也¹ (¹遺伝研・細胞遺伝, ²東京農大・ゲノム解析セ, ³東京農大・バイオ)
- P75** 構内ビオトープ池の微細藻類に着目したデジタルカメラを活用した環境教育教材の開発
○幡野 恭子・大野 理沙・野口 哲子 (京都大・院・人環)
- P77** 北海道東部海跡湖能取湖におけるアマモ場の一次生産力の評価法に関する研究
○西野 康人・松浦 雄祐・中川 至純・瀬川 進 (東京農業大学生物産業学部)
- PH1** 淡水性黄緑藻 *Pseudogoniocloris* sp. の多形性と生活環
○高橋 音葉¹・熊谷 健隆¹・須谷 昌之¹・大谷 修司² (¹島根県立出雲高等学校, ²島根大学教育学部)
- PH3** 淡水産単細胞性緑藻 *Tetaedron regulare* Kutzing の生活環に関する研究
○熊谷 健隆¹・小黒 健太郎¹・須田 拓人¹・宮本 和季¹・須谷 昌之¹・大谷 修司² (¹島根県立出雲高等学校, ²島根大学教育学部)
- PH5** 同所的に存在する地衣類の共生藻類の多様性と菌類との種間関係
○綾本 碧尉¹・西堀 洋平²・宮下 英明^{2,3} (¹帝塚山高等学校, ²京都大・院・人間・環境, ³京都大・院・地球環境)

14:15 – 16:20 口頭発表

A 会場 (青葉山コモンズ 2 階 大講義室)		B 会場 (青葉山コモンズ 2 階 第 1 講義室)	
14:15	A12 国内温帯域の大型褐藻における種構成・現存量の将来予測 ○熊谷 直喜・有田 康一・矢部 徹・山野 博哉 (国立環境研・生物セ)	B12 緑藻ボニニアオノリ (<i>Umbraulva kuaweuweu</i>) の遊泳細胞形成における遺伝子発現プロファイリング ○寺内 真 ¹ ・北山 太樹 ² ・川井 浩史 ¹ (¹ 神戸大・内海域セ, ² 国立科博)	
14:30	A13 Comparative study in the phenological ecology of two perennial <i>Sargassum</i> species on western coast of Oshika Peninsula ○Nurqadri Syaia Bakti・Kokichi Ito・Masakazu Aoki・Eri Inomata・Yukio Agatsuma (Graduate School of Agricultural Science, Tohoku University)	B13 性フェロモンによる褐藻ムチモ雄性配偶子の正から負の走光性への転換 ○木ノ下 菜々 ^{1,2} ・柴 小菊 ¹ ・梅澤 大樹 ³ ・本村 泰三 ⁴ ・稲葉 一男 ¹ (¹ 筑波大・下田臨海実験セ, ² 学振 PD, ³ 北大・環境科, ⁴ 北大・北方セ)	
14:45	A14 Transplantation trial of <i>Sargassum confusum</i> using artificial holdfast in ambient habitat ○Delta Putra・Kokichi Ito・Haruka Suzuki・Masakazu Aoki・Eri Inomata・Yukio Agatsuma (Graduate School of Agricultural Science, Tohoku University)	B14 褐藻ムチモ (異形配偶子接合) の受精におけるミトコンドリアの挙動について ○申 元 ¹ ・本村 泰三 ² ・長里 千香子 ² (¹ 北大・院・環境, ² 北大・北方セ)	
15:00	A15 Possibility of community shift from barrens to marine forest only by removal of sea urchins in the existing barren grounds and their optimal density for sustainable maintenance ○Jeong Ha Kim (Dept. Biol. Sci., SKKU, South Korea)	B15 褐藻ヒジキの系統地理学的解析と地域個体群の環境適応 孫田 佳奈 ¹ ・岩崎 貴也 ² ・○寫田 智 ³ (¹ 京大・大学院, ² 神奈川大・理学部, ³ お茶大・基幹研究院)	
15:15–15:20		休憩	
15:20	A16 三重県南部の磯焼け海域におけるウニ類現存量と海藻被度の関係 ○石川 達也 ^{1,2} ・倉島 彰 ¹ (¹ 三重大院・生物資源, ² 尾鷲市役所)	B16 褐藻カヤモノリにおける単為発生生殖を行う雌優占集団：退化した有性的形質と新たに獲得した無性的形質 ○星野 雅和 ¹ ・神谷 充伸 ² ・小亀 一弘 ¹ (¹ 北海道大・院理, ² 福井県大・海洋生物)	
15:35	A17 三重県鳥羽市と南伊勢町のヒジキ群落の生産力と生長の季節変化 ○野北 悠輔 ¹ ・岩尾 豊紀 ² ・岩出 将英 ³ ・中西 尚文 ⁴ ・倉島 彰 ¹ (¹ 三重大院・生物資源, ² 鳥羽水研, ³ 三重水研, ⁴ 三重県尾鷲農林水)	B17 褐藻クロモズク (広義シオミドロ目) の分子系統解析と分類の再検討 ○川井 浩史 ¹ ・羽生田 岳昭 ¹ ・柴田 健介 ² ・神谷 充伸 ³ (¹ 神戸大・内海域, ² 愛媛植物研究会, ³ 福井県立大・海洋生物資源)	
15:50	A18 三重県尾鷲湾における 2013 年に発生した磯焼けからの回復過程 ○加藤 葉 ¹ ・石川 達也 ^{1,2} ・岩尾 豊紀 ³ ・倉島 彰 ¹ (¹ 三重大院・生物資源, ² 尾鷲市役所, ³ 鳥羽市水産研究所)	B18 Genome analysis of the red seaweed <i>Gracilariopsis chorda</i> provides insights into genome size evolution in Rhodophyta ○JunMo Lee・Hwan Su Yoon (Sungkyunkwan Univ.)	
16:05	A19 アラメに対する除草剤の毒性評価 ○榎 大貴・桑野 和可 (長崎大・院・水環)	B19 Yanagi nori—the Japanese <i>Chondria dasyphylla</i> (Rhodomelaceae, Rhodophyta) including a new species and a probable new record of <i>Chondria</i> from Japan ○Suttikarn Sutti ¹ ・Masaya Tani ¹ ・Tsuyoshi Abe ² ・Kazuhiro Kogame ¹ (¹ Graduate School of Science, Hokkaido Univ.; ² University Museum, Hokkaido Univ.)	

16:30 – 17:30 総会 (A 会場)

18:30 – 20:30 懇親会 (ホテルメトロポリタン仙台 3 階「曙」)

3月25日(日) 午前の部

8:50 - 12:00 公開シンポジウム (A会場) / 9:00 - 11:50 口頭発表 (B会場)

A会場 (青葉山コモンズ2階 大講義室)	B会場 (青葉山コモンズ2階 第1講義室)
8:50 - 12:00 公開シンポジウム 「沿岸域のモニタリング — 藻場の過去・現在・未来」	9:00 B20 藻類の進化は haploid/diploid 世代の無性生殖頻度とハビタット利用の違いからいかなる影響を受けるのか?
8:50 - 9:00 開会コメント (田中 次郎)	○別所 和博 ^{1,2} ・Sarah P. Otto ³ (¹ 総合研究大学院大学, ² 学術振興会特別研究員PD, ³ ブリティッシュコロロンビア大学)
パート1: 環境省モニタリングサイト 1000 の調査から	9:15 B21 Species discovery and evolution of marine gregarines (Apicomplexa): the ancient relatives of Malaria
9:00 - 9:20 PS01 モニタリングサイト 1000 藻場「淡路由良, 竹野」 川井 浩史(神戸大)・阿部 真比古(水産大学校)・神谷 充伸(福井県立大)・倉島 彰(三重大)・島袋 寛盛(瀬戸内海区水研)・村瀬 昇(水産大学校)・吉田 吾郎(瀬戸内海区水研)・寺田 竜太(鹿児島大)	○Naoki Davis Iritani ¹ ・Kevin C. Wakeman ² ・Takeo Horiguchi ³ (¹ Graduate School of Science, Hokkaido University, ² Institute for International Collaboration, Hokkaido University, ³ Faculty of Science, Hokkaido University)
9:20 - 9:40 PS02 モニタリングサイト 1000 藻場「室蘭, 薩摩長島」 寺田 竜太(鹿児島大)・本村 泰三(北大)・島袋 寛盛(瀬戸内海区水研)・倉島 彰(三重大)・吉田 吾郎(瀬戸内海区水研)・川井 浩史(神戸大)	9:30 B22 らせん状藍藻 <i>Arthrospira platensis</i> の滑走運動における螺旋形態の役割 ○白石 英秋・笹瀬 茉莉・坂井田 彩野(京大院・生命)
9:40 - 10:00 PS03 モニタリングサイト 1000 藻場「志津川, 伊豆下田」 倉島 彰(三重大)・坂西 芳彦(日本海区水研)・太齋 彰浩・阿部 拓三(南三陸町)・青木 優和(東北大)・田中 次郎(東京海洋大)	9:45 B23 非光合成性珪藻類葉緑体トリオースリン酸輸送体の基質特異性と紅藻類由来葉緑体進化 ○神川 龍馬 ¹ ・Daniel Moog ² ・野澤 彰 ³ ・戸澤 讓 ⁴ (¹ 京大院, ² Philipps Univ., ³ 愛媛大, ⁴ 埼玉大)
10:00 - 10:10 休憩	10:00 B24 外洋性渦鞭毛藻 <i>Ornithocercus magnificus</i> に見られる共生シアノバクテリアのゲノム解析 ○中山 卓郎 ¹ ・高野 義人 ² ・野村 真未 ³ ・柴 小菊 ³ ・稲葉 一男 ³ ・谷藤 吾朗 ⁴ ・河田 雅圭 ¹ ・稲垣 祐司 ⁵ (¹ 東北大・生命科学, ² 高知大, ³ 筑波大・下田臨海実験セ, ⁴ 国立科学博物館・動物研究部, ⁵ 筑波大・計算科学研究センター)
パート2: 東北沿岸での震災後調査から	10:15 B25 多様なラビリンチュラ類へのアグロバクテリウムを用いた形質転換の試み ○秋山 達哉 ¹ ・小田切 正人 ² ・守屋 繁春 ² ・伊東 信 ^{3,4} ・本多 大輔 ^{5,6} (¹ 甲南大・院・自然科学, ² 理研・環境資源科学研究センター, ³ 九州大・院・農, ⁴ 九州大・i-BAC, ⁵ 甲南大・理工, ⁶ 甲南大・統合ニューロ研)
10:10 - 10:30 PS04 岩礁藻場の東日本大震災に伴う変化: 南三陸アラメ群落の事例 村岡 大祐(東北水研)・玉置 仁(石巻専修大)	10:30 - 10:35 休憩
10:30 - 10:50 PS05 宮城県牡鹿半島狐崎浜沿岸において地盤沈下とその後の護岸工事がアラメ個体群に与えた影響 鈴木 はるか(東北大)・青木 智也((株)シャトー)・猪股 英里・吾妻 行雄・青木 優和(東北大)	10:35 B26 陸棲藍藻 <i>Nostoc commune</i> (イシクラゲ) で見いだされた新規マイコスポリン様アミノ酸の化学構造解析 ○坂本 敏夫 ^{1,2} ・橋本 茜 ² ・和田 直樹 ^{1,2} ・吉田 尚之 ¹ ・松郷 誠一 ^{1,2} (¹ 金沢大・理工・自然システム, ² 金沢大院・自然科学・自然システム)
10:50 - 11:10 PS06 宮城県志津川湾の褐藻アラメ群落に対する津波の影響とその後の回復過程 遠藤 光(鹿児島大)・青木 優和(東北大)・堀越 彩香(北里大)・吾妻 行雄(東北大)	10:50 B27 海洋性珪藻類の無機炭素濃縮機構と θ 型炭酸脱水酵素の役割 ○松田 祐介・Hermanus Nawary・辻 敬典・中島 健介(関西学院大学・理工学部・生命科学科)
11:10 - 11:30 PS07 宮城県志津川湾における褐藻アラメ群落のキタムラサキウニ大量加入による崩壊とウニ除去による再生 吾妻 行雄(東北大)・阿部 拓三(南三陸町)・廣常 真人・田中 一幸・猪股 英里・高木 聖実・青木 優和(東北大)	11:05 B28 クラミドモナス細胞分裂時における細胞壁糖鎖合成に関する研究 ○小谷 彩奈 ¹ ・石田 光南 ² ・前田 美奈子 ² ・小西 照子 ^{1,2} (¹ 鹿児島連大・農, ² 琉球大・農)
11:30 - 11:50 総合討論	11:20 B29 <i>Euglena gracilis</i> の二次葉緑体におけるクロロフィルサイクルとアンテナタンパク質 ○柏山 祐一郎 ¹ ・金崎 克哉 ¹ ・丸山 萌 ¹ ・粟井 光一郎 ² ・中澤 昌美 ³ ・石川 孝博 ⁴ (¹ 福井工大, ² 静岡大, ³ 大阪府大, ⁴ 島根大)
11:50 - 12:00 閉会コメント (青木 優和)	11:35 B30 珪藻 <i>Pseudostaurosira</i> におけるオルガネラゲノムの遺伝様式 ○中村 憲章・磯野 弘之・佐藤 晋也(福井県大・海洋生物)

12:00 – 13:00 昼休み

3月25日(日) 午後の部

13:00 – 14:00 ポスター発表(偶数番号)

ポスター会場(青葉山 commons 1階ホール)

- P02** 日本産褐藻イワヒゲ(カヤモノリ科)の分子系統学的解析と分類の再検討
○青木 沙耶¹・羽生田 岳昭²・川井 浩史² (¹神戸大・院・生物, ²神戸大・内海域セ)
- P04** 紅藻アマノリ類の乾燥に関する生育特性比較
○吉川 祥代¹・寺田 竜太²・渡邊 裕基³・南 誓子⁴・菊地 則雄⁵・畠田 智¹ (¹お茶の水女子大学大学院, ²鹿児島大学大学院 連合農学研究所, ³神戸大学内海域環境教育研究センター, ⁴株式会社白子, ⁵千葉県立中央博物館分館海の博物館)
- P06** Systematic revisions in the family Scytosiphonaceae (Phaeophyceae)
Wilfred John E. Santiañez¹・○Kazuhiro Kogame² (¹Dept. Nat. Hist. Sci., Hokkaido Univ.; ²Fac. Sci., Hokkaido Univ.)
- P08** 愛媛県沿岸における紅藻トサカモドキ属(ツカサノリ科)の分布と分類
○柴田 健介¹・小林 真吾² (¹愛媛植物研究会, ²愛媛県総合科学博物館)
- P10** 日本新産紅藻 *Schottera koreana* と *Stenogramma lamyi* の報告
○鈴木 雅大¹・寺田 竜太²・柴田 健介³・川井 浩史¹ (¹神戸大・内海域セ, ²鹿大・院・連農, ³愛媛植物研究会)
- P12** 小笠原の深所から採集された紅藻マサゴシバリ目の日本新産種について
北山 太樹 (国立科学博物館)
- P14** 配偶子の単為発生は野外で機能するか? 褐藻 *Scytosiphon* sp. 集団における研究
○星野 雅和・小亀 一弘 (北海道大・院理)
- P16** 三重県内の藻場・磯焼け海域における海藻被度とウニ類個体数の関係
○比嘉 瑠¹・加藤 葉¹・石川 達也^{1,2}・倉島 彰¹ (¹三重大院・生物資源, ²尾鷲市役所)
- P18** 紅藻 *Agardhiella subulata* の陸上養殖技術の開発
○岡 直宏¹・佐藤 陽一²・中西 達也³・團 昭紀¹・齋藤 稔¹・浜野 龍夫¹ (¹徳島大・院・社会産業理工, ²理研食品, ³徳島県水研)
- P20** 環境省モニタリングサイト 1000 沿岸域調査における藻場のモニタリング 2017 年の成果
○寺田 竜太¹・川井 浩史²・倉島 彰³・坂西 芳彦⁴・島袋 寛盛⁵・田中 次郎⁶・村瀬 昇⁷・阿部 拓三⁸・本村 泰三⁹・青木 美鈴¹⁰・山下 友実¹⁰ (¹鹿大・院・連農, ²神戸大・内海域セ, ³三重大・院・生資, ⁴日本海水研, ⁵瀬戸水研, ⁶海洋大・院・海洋科学, ⁷水大校, ⁸南三陸町, ⁹北大・北方セ, ¹⁰日本国際湿地保全連合)
- P22** ワカメ遊走子浸採苗の技術的安定化を目指して
○齋藤 大輔・木下 優太郎・最上 谷美穂・佐藤 陽一 (理研食品)
- P24** 沖縄島産ウミトラノオの消長と生育地
○岩永 洋志登¹・宮本 奈保²・島袋 寛盛³・香村 真徳⁴ (¹(株)沖縄環境分析センター, ²藻茂, ³水産機構瀬戸内水研, ⁴琉球大学名誉教授)
- P26** ユキノカサガイを利用した磯焼け域潜在的植生の検出
○近藤 秀城・藤田 大介 (東京海洋大学・応用藻類)
- P28** 台湾新北市瑞芳区深澳地先における紅藻トゲキリンサイの季節的消長および摂餌実験
○陳 柏原¹・李明俊²・黄 柏雄²・藤田大介¹ (¹東京海洋大・院・応用藻類, ²台湾海洋大・水産養殖)
- P30** Community structure and seasonal variation of intertidal benthic macroalgae and herbivores at Banda
○Cong WANG・Shingo Akita・Boryuan Chen・Kazuma Machida・Kenta Kawata・Yuhi Hayakawa・Syunro Yamano・Tatsuya Yamasaki・Jiaming Liu・Daisuke Fujita (Laboratory of Applied Phycology, Marine Life Science, Tokyo University of Marine Science and Technology)
- P32** 青森県日本海沿岸の藻場に関する漁業者からの聞き取り結果
○桐原 慎二¹・藤川 義一² (¹弘前大学新エネ研, ²青森県漁港漁場整備課)
- P34** 青森県日本海沿岸の藻場における魚類の出現と生育海藻との関係について
○藤川 義一¹・桐原 慎二² (¹青森県漁港漁場整備課, ²弘前大学新エネ研)
- P36** 有用海藻3種の栄養塩吸収特性
○木下 優太郎¹・佐藤 陽一¹・岡 直宏²・平岡 雅規³ (¹理研食品, ²徳島大・院・社会産業理工, ³高知大・総研セ)
- P38** Assessment of photosynthetic performance in the two life history stages of *Alaria crassifolia* (Laminariales, Phaeophyceae)
○Iris Ann Borlongan¹・Gregory N. Nishihara²・Satoshi Shimada³・Ryuta Terada¹ (¹United Grad. Sch. Agri. Sci., Kagoshima Univ., ²Inst. East China Sea Res., Org. Mar. Sci. Tech., Nagasaki Univ., ³Fac. Core Res., Nat. Sci. Div., Ochanomizu Univ.)
- P40** 鹿児島県産カワモズク類2種の光合成活性に対する光と温度の影響
○小園 淳平¹・Gregory N. Nishihara²・遠藤 光³・寺田 竜太¹ (¹鹿大・院・連農, ²長大・環シナ海セ, ³鹿大・水)
- P42** アミジグサの傷害に対する反応と生長
○前兼久 郁・田中 厚子 (琉球大・理)
- P44** 愛媛県内の高校に保管されている明治時代の海藻標本
小林 真吾 (愛媛県総合科学博物館)

- P46** 大型藻類を対象とした RNA ウイルスの網羅的探索
○千葉 悠斗^{1,2}・外丸 裕司⁴・木村 圭⁶・島袋 寛盛⁴・高木 善弘¹・平井 美穂¹・浦山 俊一^{1,6}・布浦 拓郎^{1,3} (¹海洋研究開発機構,
²横浜市大生命環境, ³横浜市大院生命環境システム, ⁴水研機構 瀬戸内水研, ⁵佐賀大低平地沿岸海域研究センター, ⁶筑波
大生命環境系)
- P48** 有毒渦鞭毛藻 *Dinophysis fortii* の盗葉緑体で機能する遺伝子の起源と依存度
○本郷 悠貴¹・矢吹 彬憲²・長井 敏¹ (¹中央水研, ²JAMSTEC)
- P50** 陸棲藍藻 *Nostoc commune* (イシクラゲ) の細胞外マトリクスに局在する抗酸化酵素・タンパク質の解析
○坂本 香織¹・坂本 敏夫² (¹金沢工大・バイオ・化学・応用バイオ, ²金沢大・理工・自然システム)
- P52** 既知の珪藻 DNA ウイルスとは全く異なる新奇環状 DNA ウイルスの系統解析
○木村 圭¹・外丸 裕司² (¹佐賀大・低平地沿岸セ, ²水産機構・瀬水研)
- P54** *Prochlorococcus* 捕食性プロティストの分子系統とクロロフィル分解代謝
○松田 知樹¹・四本木 彰良¹・加山 基¹・日高 清隆²・瀬藤 聡²・石川 輝³・柏山 祐一郎¹ (¹福井工大, ²水産機構・中水研,
³三重大学)
- P56** 霞ヶ浦の浮遊性藍藻
○新山 優子¹・辻 彰洋¹・中川 恵²・松崎 慎一郎² (¹国立科学博物館植物研究部, ²国立環境研究所)
- P58** *Paracercomonas* sp. KMO002 株のシアノバクテリア捕食に伴う遺伝子発現変化
○加山 基¹・谷藤 吾朗²・矢崎 裕規³・柏山 祐一郎¹ (¹福井工大, ²国立科学博物館, ³筑波大)
- P60** Scanning electron microscopy and phylogeny of an undescribed marine *Dactylocladus* with curving apical structure complex
○Wai Mun Lum¹・Kazuya Takahashi²・Haruyoshi Takayama³・Mitsunori Iwataki² (¹ Graduate School of Agricultural and Life
Sciences, Univ. Tokyo, ² Asian Natural Environmental Science Center, Univ. Tokyo, ³ Kure, Hiroshima)
- P62** Taxonomic study of two new *Amphidinium* species (Dinophyceae) with predominant non-motile stages
○Joao Henriques Kieffer e Silva¹・Kevin C. Wakeman²・Ryuta Terada³・Takeo Horiguchi⁴ (¹ Graduate School of Science, Hokkaido
University, ² Institute for International Collaboration, Hokkaido University, ³ Faculty of Fisheries, Kagoshima University, ⁴ Faculty of
Science, Hokkaido University)
- P64** 海底資源開発海域における海洋表層汚染監視システムの開発
○河地 正伸¹・大田 修平¹・山口 晴代¹・山岸 隆博¹・山本 裕史¹・淵田 茂司¹・越川 海 (国立環境研究所)
- P66** 加速度ロガーを用いたヒジキ増養殖に好適な流動環境解明の試み
○島袋 寛盛¹・岩野 英樹²・中村 翠珠³・成田 公義³・富士 泰³・吉田 吾郎¹・阿部 和雄¹ (¹瀬戸水, ²大分県農林水産研究指導センター,
³愛媛県農林水産研究所)
- P68** 神奈川県横須賀市天神島の海藻・海草付着珪藻相
○太田 梨紗子¹・鈴木 秀和¹・田中 次郎¹・南雲 保² (海洋大・藻類, ²日歯大・生物)
- P70** *Paragymnodinium* 属渦鞭毛藻の一新種における微細構造学的研究
○横内 洸¹・大沼 亮²・堀口 健雄¹ (¹北大・院理, ²遺伝研・細胞遺伝)
- P72** 過酷な環境から単離した微細藻類の新規な光酸化ストレス防御機構に関する研究
○豊島 拓樹¹・吉田 梨沙子¹・石毛 太一郎²・久保田 恵理²・高市 真一³・川崎 信治^{1,3} (¹東農大・院・バイオ, ²東農大・ゲノム解析セ,
³東農大・分子微生物)
- P74** 渦鞭毛藻 *Prorocentrum dentatum* の培地中で共培養されるバクテリアのメタゲノム解析
○鈴木 重勝¹・山口 晴代¹・河地 正伸 (国立環境研究所)
- P76** 沖繩微細藻類の有効利用に向けて
○與那城 由尚¹・高良 俊彦¹・平田 真希¹・江頭 希彩¹・Xuan Hoa Nguyen²・澄本 慎平²・金本 明彦³・太郎田 博之⁴・須田
彰一郎¹ (¹琉大・理, ²琉大・院・理工, ³オービーバイオファクトリー (株), ⁴DIC 株式会社)
- P78** 人工衛星リモートセンシングを活用した富山県西部海域におけるアマモ場分布域の推定及び季節・経年変化
○松村 航¹・寺内 元基¹・前田 経雄²・佐川 龍之³ (¹環日本海環境協力センター, ²富山県庁, ³RESTEC)

14:15 – 15:30 / 16:20 口頭発表

A 会場 (青葉山コモンズ 2 階 大講義室)		B 会場 (青葉山コモンズ 2 階 第 1 講義室)	
14:15	A20 シオグサ目多核緑藻における隔壁形成と微小管の関与 関田 諭子 ¹ ・本村 泰三 ² ・○奥田 一雄 ¹ (¹ 高知大・黒潮圏, ² 北大・北方生物圏)	B31 ハプト藻ハプトネマにみられる急速コイリング運動のメカニズム ○野村 真未 ¹ ・阿閉 耕平 ¹ ・広瀬 恵子 ² ・柴 小菊 ¹ ・稲葉 一男 ¹ (¹ 筑波大・下田臨海実験セ, ² 産総研・バイオメディカル)	
14:30	A21 同所的に生育するエゾヒトエグサとシワヒトエグサの葉緑体と光合成 Saco, Jayvee A. ¹ ・村上 明男 ² ・関田 諭子 ¹ ・○峯 一朗 ¹ (¹ 高知大・院・黒潮圏, ² 神戸大・内海域セ)	B32 網走アオコ番外地へマイクロシスティスの汽水適応の最前線 田辺 雄彦 (筑波大・ABES)	

14:45	A22 緑藻スジアオノリの雌雄配偶子と無性型二本鞭毛遊走子の微細構造比較 ○市原 健介 ¹ ・山崎 誠和 ² ・宮村 新一 ³ ・河野 重行 ⁴ ・長里 千香子 ¹ ・本村 泰三 ¹ (¹ 北大・北方セ, ² 東京大・院・新領域・先端生命, ³ 筑波大・生命環境, ⁴ 東京大・FC 推進機構)	B33 有毒渦鞭毛藻 <i>Alexandrium tamarense</i> ブルームから検出された dsRNA ウイルス ○長崎 慶三 ¹ ・高野 義人 ¹ ・山本 圭吾 ² ・布浦 拓郎 ³ ・浦山 俊一 ⁴ (¹ 高知大院黒潮, ² 大阪環農水研, ³ JAMSTEC, ⁴ 筑波大生命環境)
15:00	A23 オキナワモズク (<i>Cladosiphon okamuranus</i>) 由来細胞壁多糖の構造解析 ○宇茂佐 真夏・小西 照子 (琉球大・農)	B34 冬季播磨灘における優占珪藻類の長期的遷移現象の実験的検討の取り組み ○横山 亜紀子・越川 海 (国立環境研究所・地域環境センター)
15:15	A24 アオノリ接合初期の細胞動態と葉状体発達過程における雌雄オルガネラの排除と選択 佐藤 康太 ¹ ・市原 健介 ^{1,2} ・大田 修平 ¹ ・山崎 誠和 ¹ ・工藤 恭子 ³ ・宮村 新一 ⁴ ・平田 愛子 ⁵ ・河野 重行 ^{1,3} (¹ 東京大・院・新領域・先端生命, ² 北大・北方セ, ³ 東京大・FC 推進機構, ⁴ 筑波大・生命環境系, ⁵ 東京大・院・新領域・バイオイメージングセンター)	B35 有害渦鞭毛藻 <i>Heterocapsa circularisquama</i> への DNA ウイルス感染過程の観察 ○高野 義人 ¹ ・外丸 裕司 ² ・長崎 慶三 ¹ (¹ 高知大, ² 瀬戸内水研)
15:30 – 15:35	休憩	
15:35		B36 福島県南相馬市における土着藻類を利用したバイオマス生産 ○吉田 昌樹 ^{1,2} ・出村 幹英 ² ・横山 亜希子 ³ ・伊藤 順子 ² ・小林 宏 ² ・茅野 真司 ⁴ ・玉川 雄一 ⁵ ・渡部 将行 ⁵ ・伊達 尚人 ⁵ ・逢坂 誠 ⁵ ・河原田 充 ⁶ ・渡邊 輝夫 ⁷ ・井上 勲 ^{7,8} ・渡邊 信 ^{1,2} (¹ 筑波大・院・生命環境, ² 筑波大・藻類センター, ³ 国立環境研究所, ⁴ 藻バイオテクノロジーズ, ⁵ 相双環境, ⁶ ふくしま・みどりファーム, ⁷ 藻類産業創成コンソーシアム, ⁸ 筑波大)
15:50		B37 珪藻に感染するウイルスに感染しているサテライトウイルスの発見 ○外丸 裕司 ¹ ・木村 圭 ² ・豊田 健介 ³ (¹ 水産機構・瀬水研, ² 佐賀大学・低平沿岸セ, ³ 慶應大・自然科学教育セ)
16:05		B38 ラビリンチュラ類の現存量の把握に向けたアプローチ ○浜本 洋子 ^{1,2} ・庄野 孝範 ³ ・中井 亮佑 ⁴ ・上田 真由美 ⁵ ・本多 大輔 ^{2,3} (¹ 甲南大・院・自然科学, ² 甲南大・統合ニューロ研, ³ 甲南大・理工, ⁴ 産総研, ⁵ 大阪環農水研)

16:00 – 18:10 **ミニシンポジウム「海藻と動物 ~ 忘れちゃいけないその関係 ~」**
(青葉山コモンズ 2 階 第 3 講義室)

16:00	開会コメント (大澤 祐美子)
16:10	MS01 三重県南部の磯焼け海域におけるガンガゼと海藻の関係 石川 達也 (三重大・院・生物資源, 尾鷲市役所)
16:30	MS02 磯焼け域のウニを高級食材へ ~ 海藻による高品質化へ 高木 聖実 (東北大・院・農)
16:50	MS03 借りぐらしのエピファウナ ~ アカモク葉上動物の群集形成へ 伊藤 浩吉 (東北大・院・農)
17:10 – 17:20	休憩
17:20	MS04 アラメに登るが役に立つ? ~ 植食性巻貝コシダカガンガラと褐藻アラメの関係を野外実験で探るへ ○鈴木 はるか・久保 祐貴 (東北大・院・農)
17:40	MS05 Algae as epibionts: possible effects of <i>Pseudocladophora</i> on host <i>Lunella</i> ○Yumiko OSAWA・Mutsunori TOKESHI (Amakusa Mar. Biol. Lab. Kyushu Univ.)
18:00	閉会コメント (青木 優和)